

## 第 5 章 農林水産関連施設の概要と事業内容

### 1 中央卸売市場

#### (1) 設置目的

本市における生鮮食料品等の流通の適正かつ円滑をはかることを目的としている。

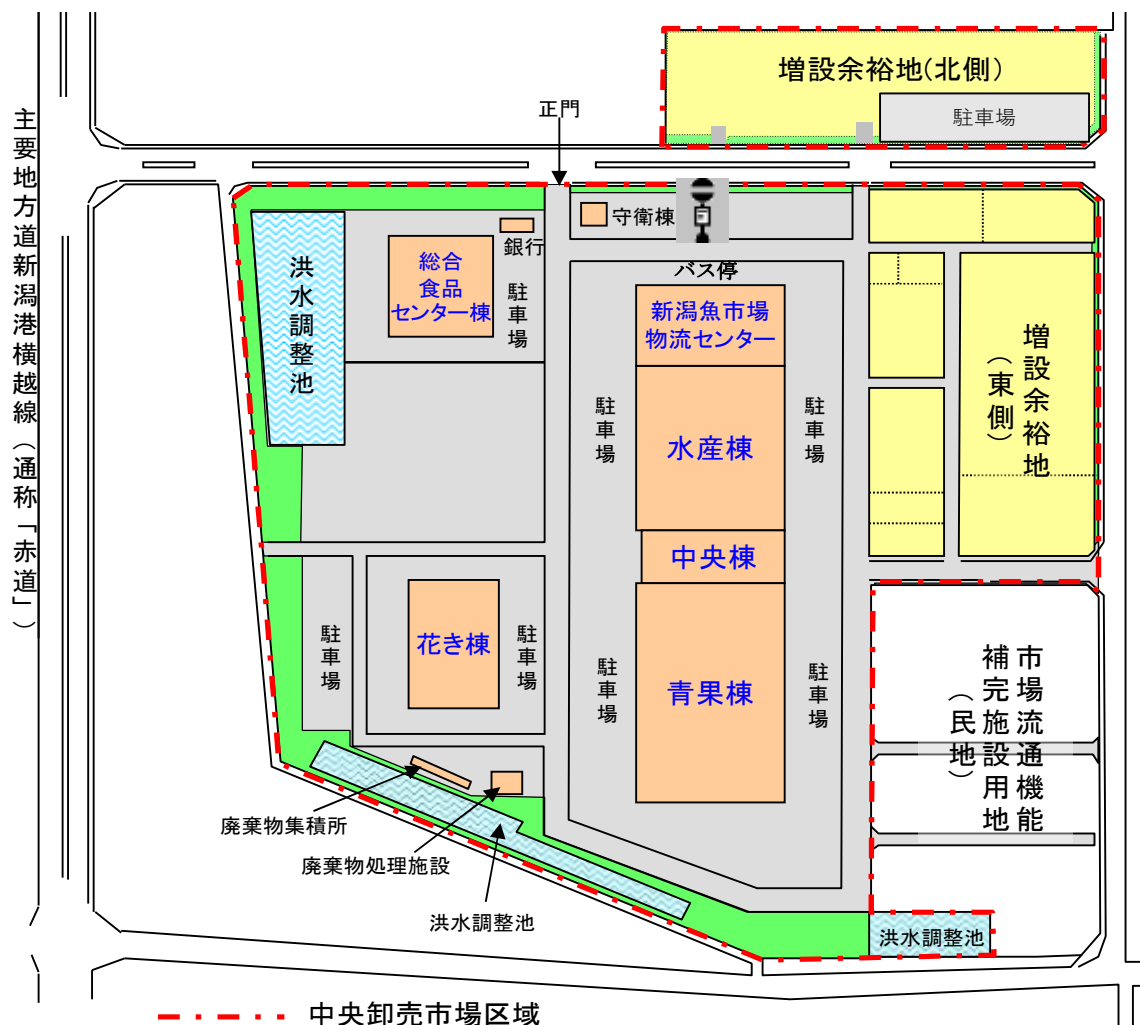
#### (2) 施設の概要（令和 7 年 9 月 1 日現在）

ア 施設の名称	新潟市中央卸売市場
イ 所在地	新潟市江南区茗荷谷 711 番地
ウ 敷地面積	267,637 m <sup>2</sup>
エ 開設認可年月日	昭和 39 年 9 月 12 日
オ 業務開始年月日	昭和 39 年 10 月 1 日 ※新市場移転年月日 平成 19 年 5 月 21 日
カ 休業日	日曜日（1 月 5 日及び 12 月 27 日から 12 月 30 日の間の日曜日除く）、 休日、1 月 2 日から 4 日及び 12 月 31 日
キ 開場時間	午前 0 時から午後 12 時
ク 運営形態	直営
ケ 取扱品目	青果部 野菜、果実及びこれらの加工品 水産物部 水産物及びこれらの加工品 花き部 花き
コ セリ開始時刻	青果部 午前 6 時 水産物部 午前 5 時 花き部 午前 9 時（火曜日及び金曜日は午前 7 時 30 分）

#### サ 主要施設の面積

名称	面積(m <sup>2</sup> )	概要	名称	面積(m <sup>2</sup> )	概要
卸売場 (合計 13,279m <sup>2</sup> )	7,080	青果棟 (1業者)	買荷保管・積込所地 (合計 7,555 m <sup>2</sup> )	3,593	青果棟
	4,733	水産棟 (2業者)		2,450	水産棟
	1,466	花き棟 (1業者)		1,512	花き棟
仲卸売場 (合計 5,165 m <sup>2</sup> )	1,676	青果棟 (15業者)	廃棄物処理施設	80	処理能力 1t/24h
	2,903	水産棟 (12業者)	駐車場	70,625	
	586	花き棟 (2業者)	管理事務所	5,416	
関連商品売場	6,246		屋根付通路	4,000	
業者事務所	8,303				

シ 施設配置図



### (3) 中央卸売市場の役割

中央卸売市場は、卸売市場法に基づく農林水産大臣の認定を受け、本市が開設している。

中央卸売市場は、私たちが快適な日常生活を営む上で欠くことのできない生鮮食料品等の生産と消費を結ぶパイプ役として、生鮮食料品等の流通を確保するための中核的拠点となるのはもちろんのこと、食品流通の合理化と生鮮食料品等の公正な取引環境の確保を促進する重要な役割を担っている。

中央卸売市場の機能としては、次のようなものが挙げられる。

#### ア 集荷・分荷機能

生産者及び出荷者からの集荷、消費者への分荷配給の接点として、生産者と消費者を結ぶ流通の中核的拠点としての機能を持っている。また、生産者、小売業者、消費者などの各ニーズに対応した品揃えはもちろんのこと、大量集荷したものを迅速に分荷する機能がある。

#### イ 価格形成機能

売り手と買い手が生鮮食料品等の状態を確認し、消費の動向や必要度等に応じて、短時間でその価格を決定する機能がある。

#### ウ 決済機能

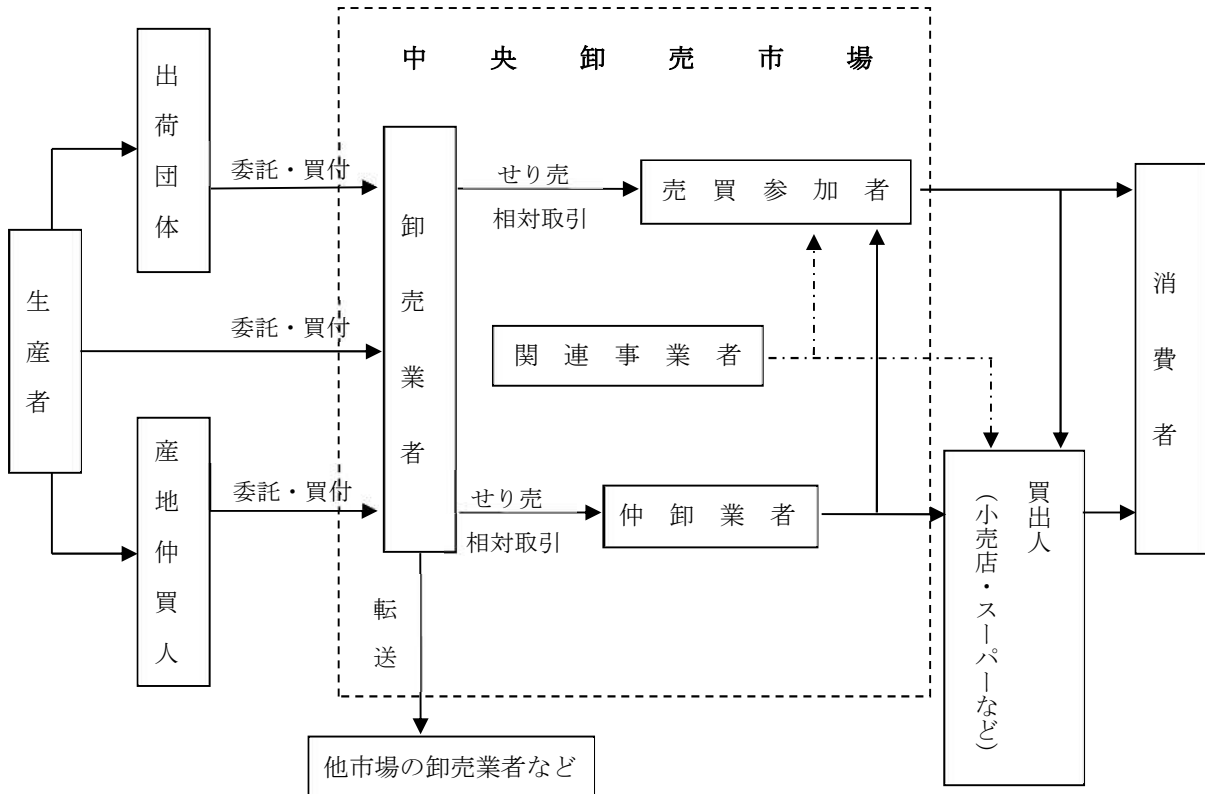
販売代金の決済を迅速・確実に行うため、卸売市場では定められたルールに基づいて決済が行われている。特別の契約（取引参加者間であらかじめ支払猶予の特約を結んだときは、その特約にお

いて定められた期日まで) がない限り、基本的には即座に支払わなければならない。

#### エ 情報伝達機能

その日の卸売予定数量や販売結果は、取引参加者にとって市場の動向を探る指標ともなるため、速やかに情報を公表している。また、生産者や小売業者等に向けて情報伝達することにより、生産者には消費者ニーズが把握しやすくなり、小売業者には産地の持つ様々な情報を販売に活用することができるといった機能がある。

#### (4) 流通のしくみ



#### ア 開設者（新潟市）…農林水産大臣の認定

施設の維持・管理、取引業務の指導・監督、価格等の情報提供を行い、適切な市場運営を図る。

#### イ 卸売業者（青果部1社、水産物部2社、花き部1社）…市長の許可

全国各地の生産者等から集荷した生鮮食料品等を、せり売又は相対取引により仲卸業者や売買参加者に販売する。

#### ウ 仲卸業者（青果部15社、水産物部12社、花き部2社）…市長の許可

卸売業者から仕入れた大量の生鮮食料品等を市場内の店舗で仕分けして、売買参加者や買出人に販売したり、スーパーなどに配送をしたりする。

#### エ 売買参加者（青果部98社（人）、水産物部84社（人）、花き部129社（人））…市長の承認

小売商、加工業者等のうち、卸売業者との取引に参加する資格を持っている者で、卸売業者又は仲卸業者から直接仕入れ、消費者に販売したり、加工食料品等を製造したりする。

#### オ 関連事業者（29業者）…市長の許可

市場機能の充実や市場の利用者に便益を提供するため、市場内に店舗を設け、運送業、食料品等販売業、金融業、食堂等を営業している。

#### カ 買出人

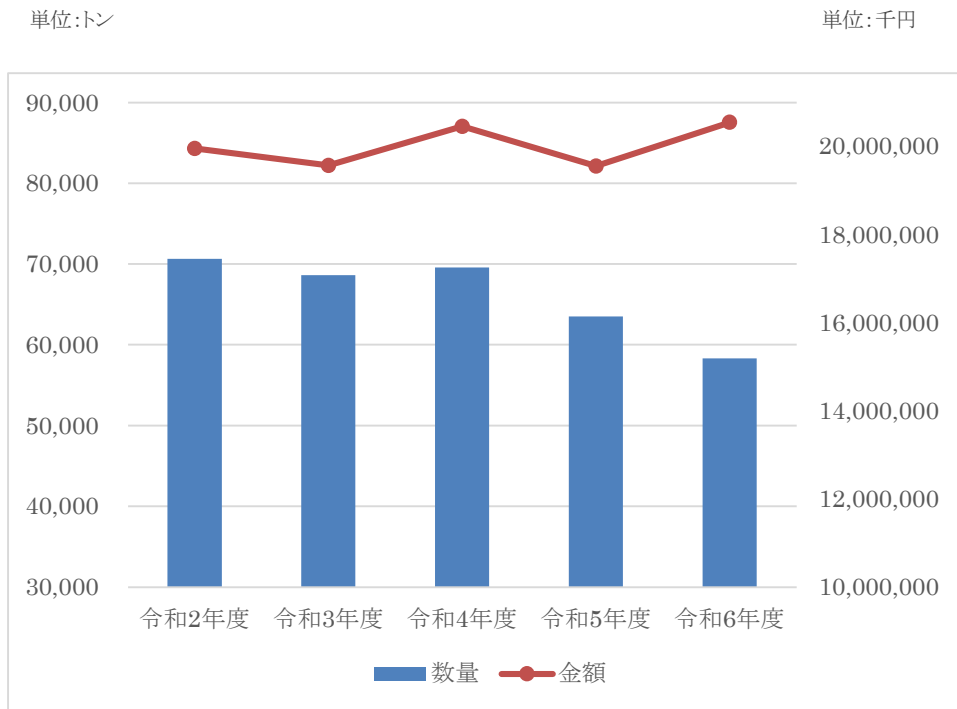
卸売業者との取引に参加する資格を持たず、仲卸業者や関連事業者から必要な品物を仕入れ、小売店、スーパーマーケット、飲食店、旅館等を営む人達である。

(5) 令和6年度 市場取扱状況（推移）

（青果部）

	野 菜	果 実	加工品その他	合 計
数 量 （ト ン）	37,631	20,543	154	58,328
金 額 （千円）	11,429,707	8,939,655	181,067	20,550,429

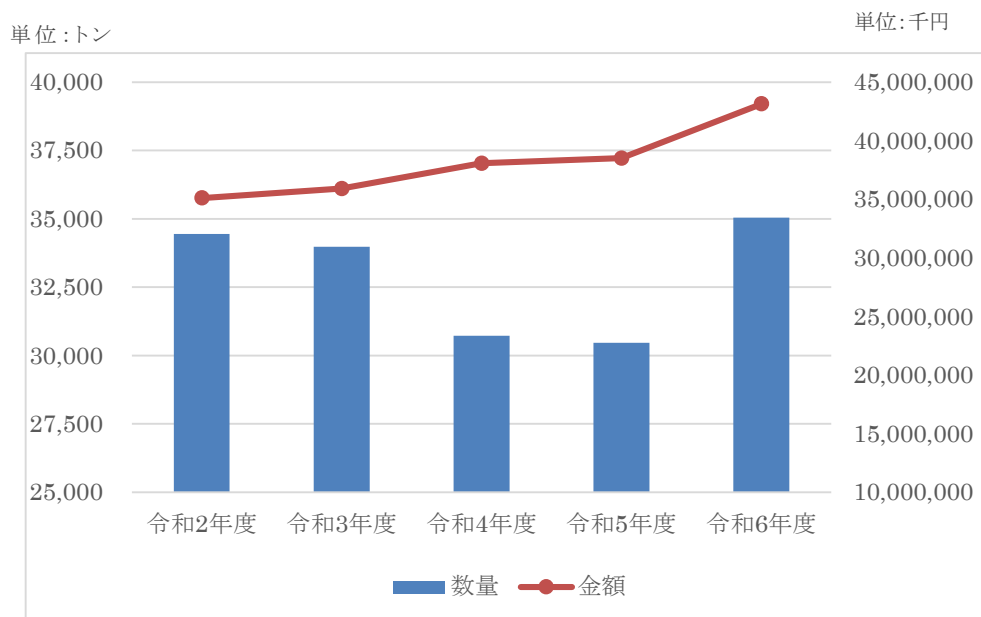
※金額は消費税を含む



（水産物部）

	生鮮水産物	冷凍水産物	塩干・加工品その他	合 計
数 量 （ト ン）	10,885	17,504	6,657	35,046
金 額 （千円）	13,340,942	18,359,987	11,450,616	43,151,545

※金額は消費税を含む



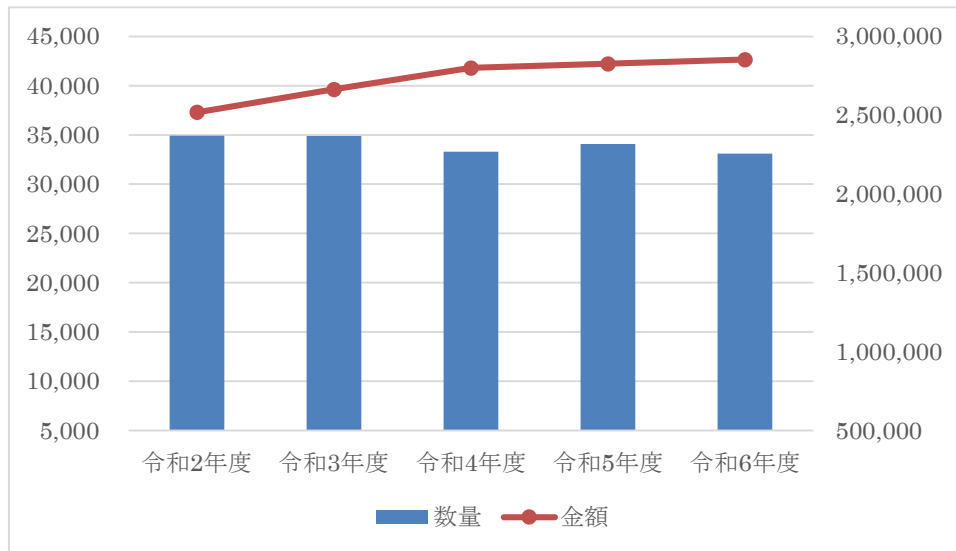
(花き部)

	切 花	鉢 物	合 計
数 量 (千本)	32,119	—	32,119
数 量 (千鉢)	—	973	973
金 額 (千円)	2,627,899	226,099	2,853,998

※金額は消費税を含む

単位:千本, 千鉢

単位:千円



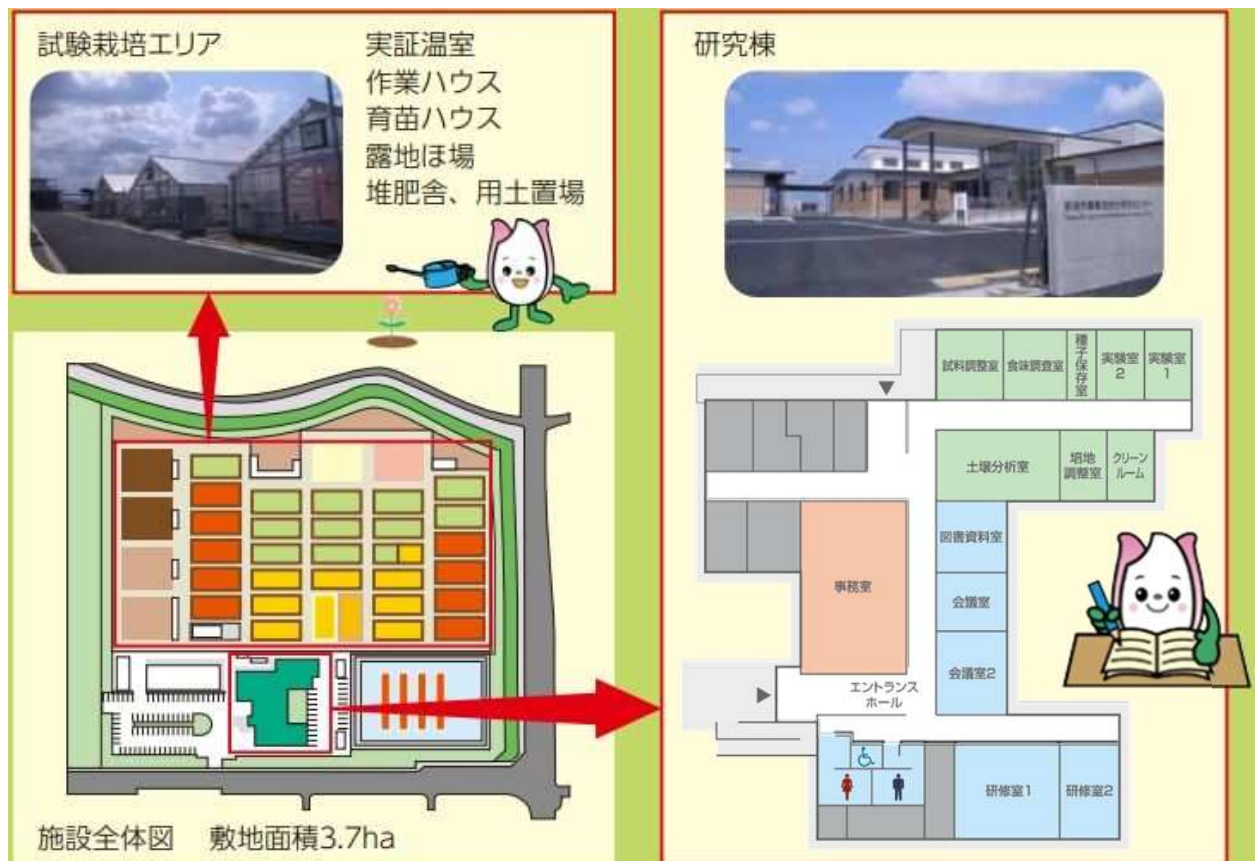
## 2 農業活性化研究センター

### (1) 設置目的

本市のさらなる農業振興を図るため、農業者が抱えている技術的な課題の解決や農村の活性化を支援するとともに、食品加工支援センターや（公財）新潟市産業振興財団等の関係機関とも連携しながら6次産業化や農商工連携を積極的に支援することを目的としている。

### (2) 施設の概要

ア 施設の名称	新潟市農業活性化研究センター
イ 所在地	新潟市南区東笠巻新田 3043 番地 1（敷地面積 3.7ha）
ウ 開設年月日	平成 25 年 6 月 28 日
エ 休館日	日曜日、土曜日、祝・休日及び 12 月 29 日～1 月 3 日
オ 開館時間	午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分まで
カ 運営形態	直営
キ 施設概要図	



### ク 施設内容

研究棟	土壌分析室、培地調整室、クリーンルーム・培養室、実験室1・2、試料調整室、食味調査室、種子保存室、研修室1・2、会議室、会議室2、図書資料室、事務室
試験栽培エリア	実証温室、作業ハウス、育苗ハウス、露地ほ場、堆肥舎、用土置場
そのほか	収納舎、車庫

### (3) 事業内容

#### ア 試験研究事業

農作物の安定生産や品質向上を図るため、農作物の生産に関する試験研究を行う。

##### (ア) 栽培実証試験

生産現場における栽培技術上の課題（品種・作型・栽培法・資材など）や国・県等で開発された技術を普及するための課題、市の施策を普及推進するための課題等について栽培実証試験を実施する。

##### (イ) 大学等との共同研究

本市農産物のブランド化や企業等のニーズに対応した品種育成等の共同研究を市内外の大学等と連携し、共同研究を進める。

#### イ J-クレジット普及推進事業

温室効果ガスの排出削減量・吸収量をクレジットとして国が認証する「J-クレジット制度」を活用することにより、環境に配慮した持続可能な農業を推進するとともに、創出したクレジットを域内で循環させ、地域農業・域内企業の環境保全活動の活性化を図る。

#### ウ 環境負荷低減農業研究事業

持続可能な農業の実現を目的に、農業における生産性向上や脱炭素化・環境負荷低減に向け、土壌診断事業や、環境に配慮した革新的な技術や生産体系のための研究を実施する。

#### エ 農産物高付加価値化推進事業

農業者の所得向上や農業振興を目的に、農産物の様々な機能性成分等に着目し、科学的根拠を裏付けとした付加価値の高い商品開発を進める。

#### オ 6次産業化サポート事業

農産物の生産から加工・販売までマーケットに対応した農産物の付加価値向上や6次産業化・農商工連携など農業者の新事業展開を支援する。

##### (ア) 相談業務・セミナー

（公財）新潟 IPC 財団やアグリパーク食品加工支援センター等と連携し、食品加工、販路拡大、機能性調査などの相談対応やセミナーを開催する。

##### (イ) 6次産業化・農商工連携支援補助金

農業者や食品関連企業が行う農産品の加工・販売による新規事業展開や事業の拡大を対象に、加工機械・施設整備、販路拡大、機能性成分調査に係る経費を補助する。（補助率 1/3、上限補助金 100 万円）

### 3 食育・花育センター

#### (1) 設置目的

自然豊かな鳥屋野潟南部に、全国初の「食と花を一体的に学ぶ場」として整備したもので、食育及び花育を推進し、市民の健全な心と身体を培い、豊かな人間性をはぐくむことを目的としている。

#### (2) 施設の概要

ア 施設の名称	新潟市食育・花育センター
イ 所在地	新潟市中央区清五郎 401 番地（敷地面積 約 0.9ha）
ウ 開設年月日	平成 23 年 10 月 15 日
エ 休館日	不定休
オ 開館時間	午前 9 時から午後 5 時まで
カ 運営形態	公設民営（指定管理者制度） 指定管理者 いくとぴあ食花運営グループ 代表 グリーン産業株式会社 愛宕商事株式会社 株式会社新潟ビルサービス 〔 指定期間 令和 5 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日 〕

#### キ 来館者数

H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
107,007 人	214,449 人	350,612 人	430,464 人	504,495 人	426,220 人
H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
414,565 人	395,233 人	378,851 人	235,514 人	254,542 人	279,092 人
R5 年度	R6 年度	累計			
283,277 人	314,916 人	4,274,321 人			

#### ク 本体施設 鉄筋コンクリート造り 2 階建て（延床面積 2,349 m<sup>2</sup>）

場所	施設名
1 階	アトリウム、調理実習室（調理台 9 台、貸出施設）、食の体験展示コーナー、情報展示コーナー、相談・図書コーナー、事務室
2 階	講座室（定員 120 人、貸出施設）、食の広場・花の広場、多目的ラウンジ
屋外	ほ場（見本園）、農舎、育成温室



ケ 施設配置図



コ 平面図

1 階

2 階



(3) 事業内容

ア 食育の推進

(ア) 取り組みの概要

本市は「大消費地」でありながら、身近なところで米をはじめとする多種多様な野菜や果物が生産される「大生産地」でもある。また、日本海では新鮮な魚が漁獲され、健全な食生活を送ることができる豊かな環境に恵まれている。

この特長を生かして、様々な体験を通じて「食」に関する知識及び「食」を選択する力を習得し、健全な心と身体、豊かな人間性を育む「食育」を市民運動として推進している。

(イ) 主な実施事業

a 季節の料理教室の実施

本市で生産される米や食材を生かした調理体験を通じて、食への興味・関心の向上、健康づく

り、地産地消、食文化の継承、食品ロス削減等の「食育」につながる料理教室を企画、実施する。

・令和6年度料理教室：70件、1,586人

b 食育ミニ体験等の実施

本市の多種多様な食材・食文化・健康づくり等、食育の実践につながるプログラムの体験を通して、子どもたちを中心とした市民の心と身体健康や豊かな人間性を育む。

・令和6年度食育ミニ体験：148件、4,570人

イ 花育の推進

(ア) 取り組みの概要

全国に誇る花の大産地である本市が、「花や緑」を大切に育み、一層こころ豊かなまちとなることで、名実ともに「食と花の政令市にいがた」をつくりあげることが目的に、市民をはじめ、生産や流通、販売、そして教育や福祉に携わる多くの皆様と行政等が一体となり花育を推進している。

(イ) 主な実施事業

a アトリウム、屋外見本園等における植栽展示

アトリウム、屋外見本園等に季節に応じた新潟市ならではの草花、花木、樹木などを植栽し、来園者にくつろぎの空間として楽しんでいただくとともに、市民が家庭や地域で「花や緑」を育てるための見本園として展示している。

b 相談業務

一般市民を対象に樹木や草花などの手入れや病害虫の防除など、家庭園芸全般について、来園又は電話による園芸相談に応じている。

・令和6年度園芸相談：4,728件

c 園芸講習会、展示会の開催

市民の園芸に対する多様なニーズに応じた園芸講座や園芸に関する市民団体等が日頃の活動の成果を発表する場として展示会を開催している。

d 花育関連情報の発信

食育・花育センター内において、新潟市産の花、「花や緑」を生活に取り入れる方法、市内の花育活動等の情報を展示し、来園者に対して花育の大切さ、楽しさを伝えるとともに、花育情報を発信することで、花育の普及・啓発を図る。

ウ 食と花による交流の推進

食育、花育や農業に関する体験の機会として、小学校・保育園等の団体体験プログラムの実施や、いくとぴあ食花各施設と連携して季節に応じたイベントを開催する。

・令和6年度団体体験プログラム：200団体（うち保育施設64園、小学校97校、その他団体39団体）

## 4 食と花の交流センター

### (1) 設置目的

本市が誇る食と花の魅力を市内外に発信し、多くの人にその魅力に触れる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大及び農村と都市の交流を推進し、もって農林水産業の振興及び市民の豊かな生活の実現に資すること

### (2) 施設の概要

- ア 施設の名称 新潟市食と花の交流センター  
(いくとびあ食花内民活ゾーン)
- イ 所在地 新潟市中央区清五郎 336 番地 (敷地面積 5.7ha)
- ウ 開設年月日 平成 26 年 6 月 21 日
- エ 休館日 不定休
- オ 開館時間 午前 9 時から午後 5 時 (施設・季節により異なる。)
- カ 運営形態 公設民営 (指定管理者制度)  
指定管理者 いくとびあ食花運営グループ  
代表 グリーン産業株式会社  
愛宕商事株式会社  
株式会社新潟ビルサービス  
〔 指定期間 令和 5 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日 〕

### キ 来場者数

H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
402,627 人	417,951 人	398,624 人	438,192 人	584,321 人

R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
674,062 人	611,448 人	682,917 人	704,479 人	696,079 人

R6 年度
714,639 人

累計
6,325,339 人

### ク 主な施設内容

施設名	構造	面積等	備考
情報館	木造 2 階建	369.8 m <sup>2</sup> (延床)	
キラキラガーデン		約 13,500 m <sup>2</sup>	13 種類の庭園
花とみどりの展示館	鉄骨平屋造	1026.5 m <sup>2</sup> (延床)	
キラキラレストラン	鉄骨平屋造	699.0 m <sup>2</sup> (延床)	出店者 (株) オーシャンシステム
キラキラマーケット	鉄骨平屋造	1831.6 m <sup>2</sup> (延床)	出店者 いくとびあ食花グループ

施設名	構造	面積等	備考
多目的広場		900 m <sup>2</sup>	主にドッグランとして活用
第1駐車場		8,200 m <sup>2</sup>	299 台
第2駐車場		5,000 m <sup>2</sup>	119 台

ケ 施設配置図



### (3) 事業内容

#### ア 花とみどりの展示事業

ガーデン及び花とみどりの展示館において、本市自慢の多彩で美しい花とみどりを展示し、品質の良さを市内外にPRし、ブランドアップにつなげる。

身近な生活での花とみどりの取入れ方、飾り方等による新しいライフスタイルを提案することで、市民に感動を与え、花とみどりに囲まれた寛ぎとやすらぎの空間を提供する。

- ・ガーデン、展示館での花やみどりの展示
- ・花とみどりをテーマにしたワークショップ

#### イ 食と花のプロモーション事業

施設内の直売所及びレストラン等との連携により、本市の食と花などの優れた農林水産物のブランドイメージを更に高め、市内・外に広く浸透させる各種取り組みを実施する。

- ・直売所、レストランでの市内農産品の展示販売（提供）によるPR
- ・イベント時の市内農産品の情報発信

#### ウ 8大イベントの開催

食育、花育や農業に関する体験の機会として、いくとびあ食花内の各施設と連携し、季節に応じたイベントを開催する。

イベント名	開催日	来場者数
春いくフェスタ	令和6年4月13日（土）～14日（日）	9,632人
ゴールデンウィークスペシャル	令和6年5月3日（金）～6日（月）	17,071人
キラキラフェスタ	令和6年6月22日（土）～23日（日）	6,385人
夏休みこどもまつり	令和6年7月27日（土）～28日（日）	5,893人
動物ふれあいフェスタ	令和6年9月21日（土）～23日（月）	10,162人
秋の収穫感謝祭	令和6年10月19日（土）～20日（日）	5,743人
クリスマスフェスタ	令和6年12月14日（土）～15日（日）	5,042人
春花・舞花	令和7年3月1日（土）～2日（日）	6,417人

## 5 アグリパーク

### (1) 設置目的

- ・市民が農業に触れ、親しむ場並びに農業を学ぶ場を提供することにより、地域の農業に対する理解を深め、もって郷土愛を育むこと
- ・市内の生産者等に対する食品加工等に関する支援を行うことにより、農業の振興に資すること

### (2) 施設の概要

ア	施設の名称	新潟市アグリパーク
イ	所在地	新潟市南区東笠巻新田 3044 番地（敷地面積 4.0ha）
ウ	開設年月日	平成 26 年 6 月 28 日
エ	休館日	不定休
オ	開館時間	午前 9 時から午後 5 時（施設により異なる。）
カ	運営形態	公設民営（指定管理者制度）
	指定管理者	アグリパーク運営グループ
	代表	グリーン産業株式会社 愛宕商事株式会社 株式会社新潟ビルサービス
	指定期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 10 年 3 月 31 日

### キ 来場者数

H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
220,438 人	198,345 人	193,837 人	173,792 人	189,312 人

R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
186,965 人	166,339 人	165,932 人	182,147 人	191,491 人

R6 年度	累計
192,304 人	2,060,902 人

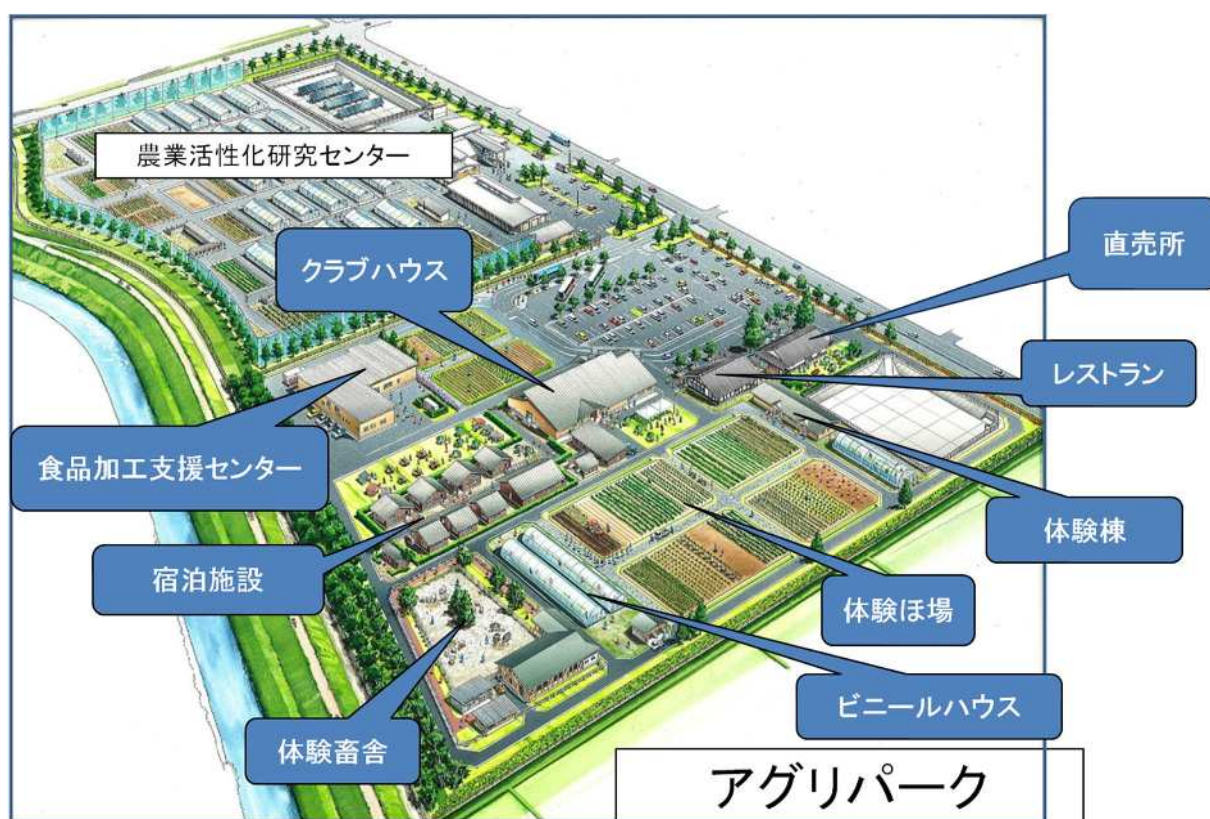
### ク 主な施設内容

施設名	構造	面積等	備考
クラブハウス	鉄骨平屋造	938.57 m <sup>2</sup> （延床）	学習室 100 名程度 外
農業体験棟	鉄骨平屋造	243.29 m <sup>2</sup> （延床）	120 名程度
畜舎	木造平屋造	388.37 m <sup>2</sup> （延床）	学習室 40 名程度 外
農器具庫	木造平屋造	123.56 m <sup>2</sup> （延床）	



施設名	構造	面積等	備考
宿泊施設	木造平屋造	381.13 m <sup>2</sup> (延床)	最大宿泊人数 70 名
宿泊棟	木造平屋造	158.64 m <sup>2</sup> (延床)	
直売所	木造平屋造	253.96 m <sup>2</sup> (延床)	出店者 (株) にいがた村
レストラン	木造平屋造	282.25 m <sup>2</sup> (延床)	出店者 愛宕商事 (株)
食品加工支援センター	鉄骨平屋造	812.37 m <sup>2</sup> (延床)	商品開発研修室、加工室 外
ほ場		7,000 m <sup>2</sup>	
駐車場		4,200 m <sup>2</sup>	136 台

ケ 施設配置図



### (3) 事業内容

#### ア 教育ファーム

作物を育てるところから食べるところまで本物の一貫した体験の機会を提供し、その体験を通じて自然の力やそれを生かす生産者等の知恵と工夫を学び、収穫の喜びや苦勞、食べ物大切さ、命の尊さを実感し、もって学ぶことができるカリキュラムを企画し実施する。

- ・アグリ・スタディ・プログラム（幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校、特別支援学校を対象）
- ・一般向け農業体験プログラム

## イ 就農支援事業

「農業」という「仕事」の意義を伝え、農業への興味の喚起から就農に繋げるため、農業の基礎的な知識、技術を享受する各種プログラムを提供するとともに就農に関する各種相談やフォローアップ、地域農家との交流会の実施を行うなど就農の促進を図る。

- ・ ウイークエンド農業塾、ウイークデー農業塾
- ・ 技能習得講座・研修
- ・ 就農相談

## ウ 食品加工支援事業

農家の所得向上に資するため、地元農家、農業団体等の6次産業化を支援する。食品加工における知識及び技術の取得のための講座のほか、商品化に向けたマーケティングや販促、食品衛生に関する各種講座を実施。6次産業化におけるトータル的な支援を行うとともに、地元企業、学生などと連携し、地元農産物を活かした新たな製品を開発する。

- ・ 食品加工技術の指導、食品加工研修講座、新製品の開発支援

## エ 交流イベントの開催

食品企業や農業関連企業と連携して、新潟市を代表する農作物の収穫体験や食の体験を行うほか、季節行事や地域行事を取り入れたイベントを開催し、農村と都市の交流の推進を図る。

イベント名	開催月	内容	参加者数
アグリパーク10周年祭	R6年6月	よさこい演舞、白根大風太鼓等	2,400人
味わおう！楽しもう！ 新潟米&にいがた和牛	R6年10月	象印・全農・パーク共催和牛試食等	700人
歳末大感謝祭	R6年12月	マルシン食品共催、ピザづくり・搾乳体験	1,000人
ふるさとまつり どんど焼き	R7年1月	地域コミュ協と伝統行事どんど焼きを実施	1,200人



## 6 水産施設

### (1) 漁港整備の状況

ア 令和6年度 松浜漁港整備内容

(単位：千円)

事業名	事業内容		事業費
水産物供給基盤 機能保全事業 (R5 繰越)	松浜漁港浚渫その2工事	V=600 m <sup>3</sup>	13,981

イ 令和6年度 新川漁港整備内容

(単位：千円)

事業名	事業内容		事業費
水産物供給基盤 機能保全事業	新川漁港浚渫工事	N=3 日	1,320
	新川漁港浚渫（その2）工事	V=532 m <sup>3</sup>	4,576
	新川漁港浚渫（その3）工事	V=9,000 m <sup>3</sup>	31,020
	新川漁港機能保全計画更新策定業務委託	N= 一式	20,295
海岸メンテナンス事業	新川漁港海岸保全施設長寿命化計画更新業務委託	N= 一式	9,831
漁港整備事業	新川漁港照明施設修繕工事	N=2 基	2,007

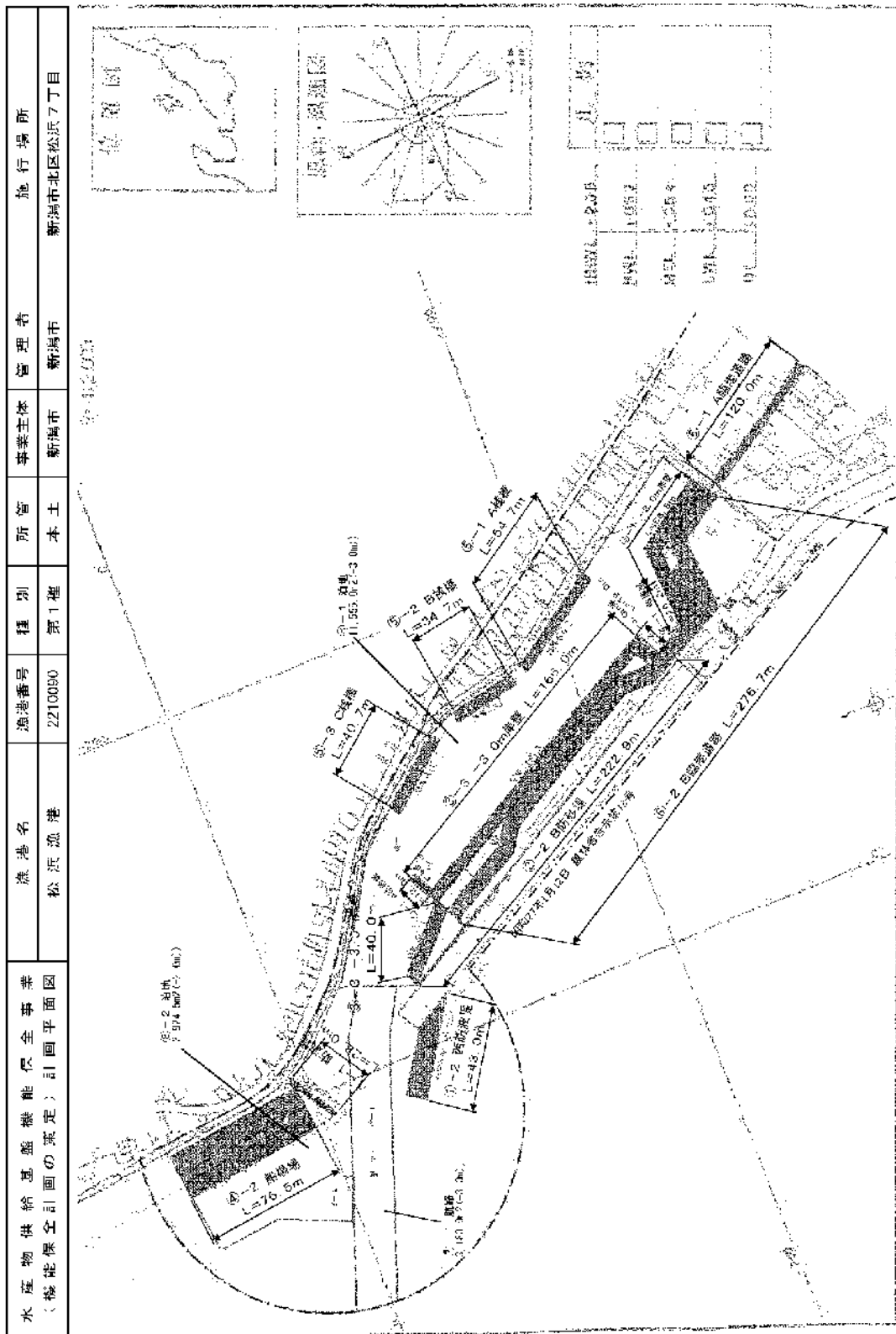
ウ 令和6年度 巻漁港整備内容

(単位：千円)

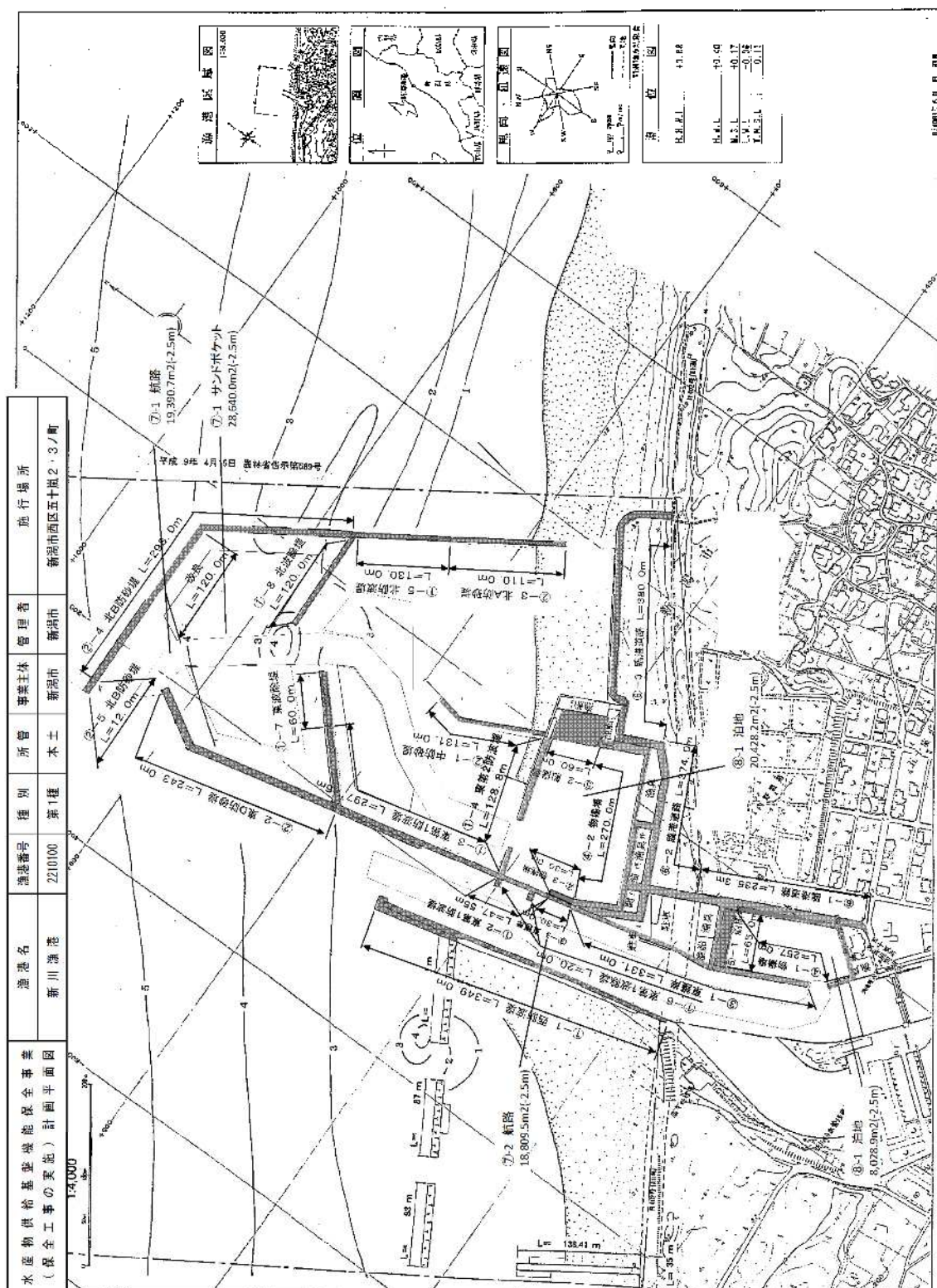
事業名	事業内容		事業費
水産物供給基盤 機能保全事業 (R5 繰越)	巻漁港機能保全計画更新策定業務委託	N= 一式	23,060
海岸メンテナンス事業 (R5 繰越)	巻漁港海岸保全施設 長寿命化計画更新業務委託	N= 一式	4,169

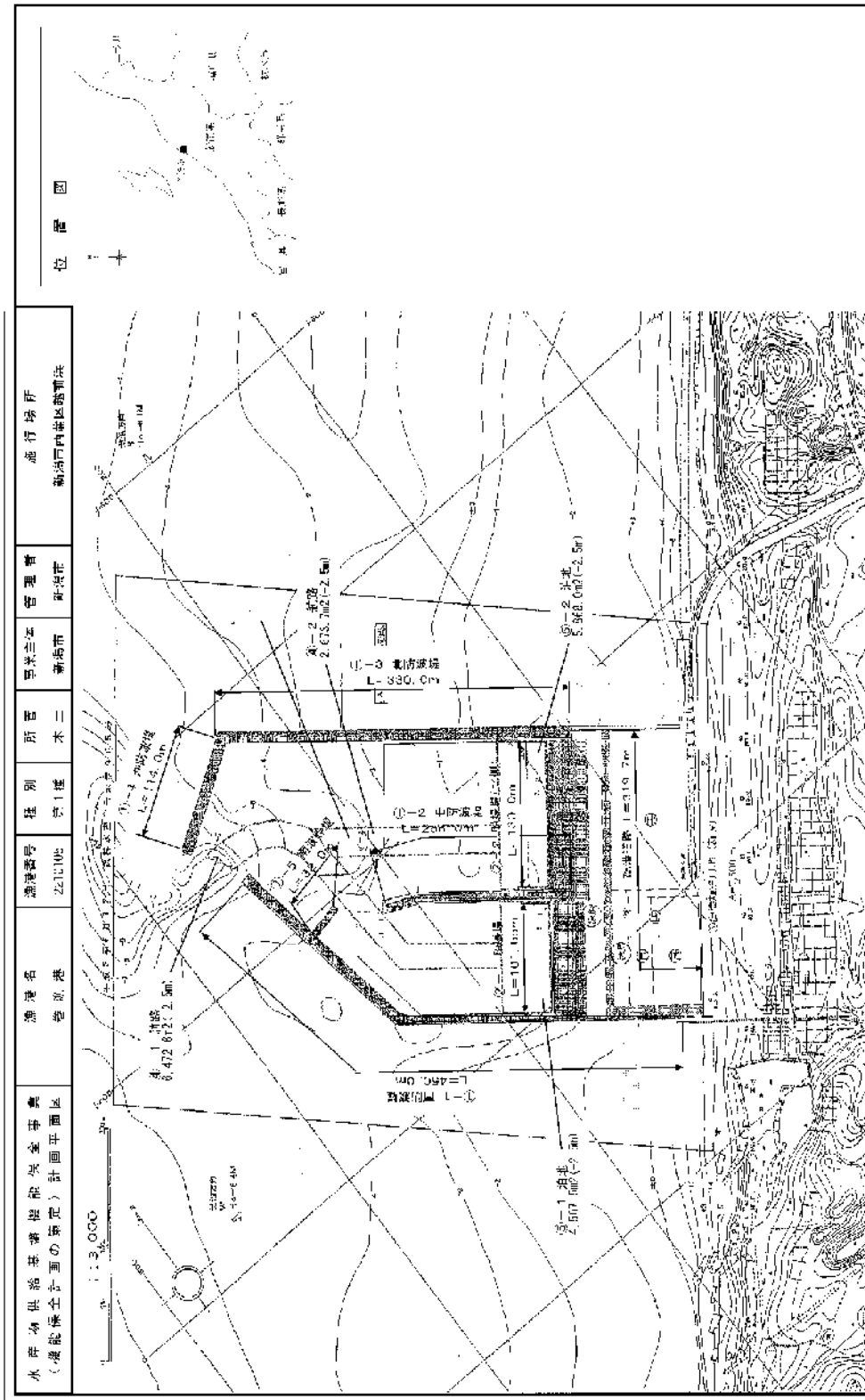
(2) 漁港図

ア 松浜漁港図



## イ 新川漁港図



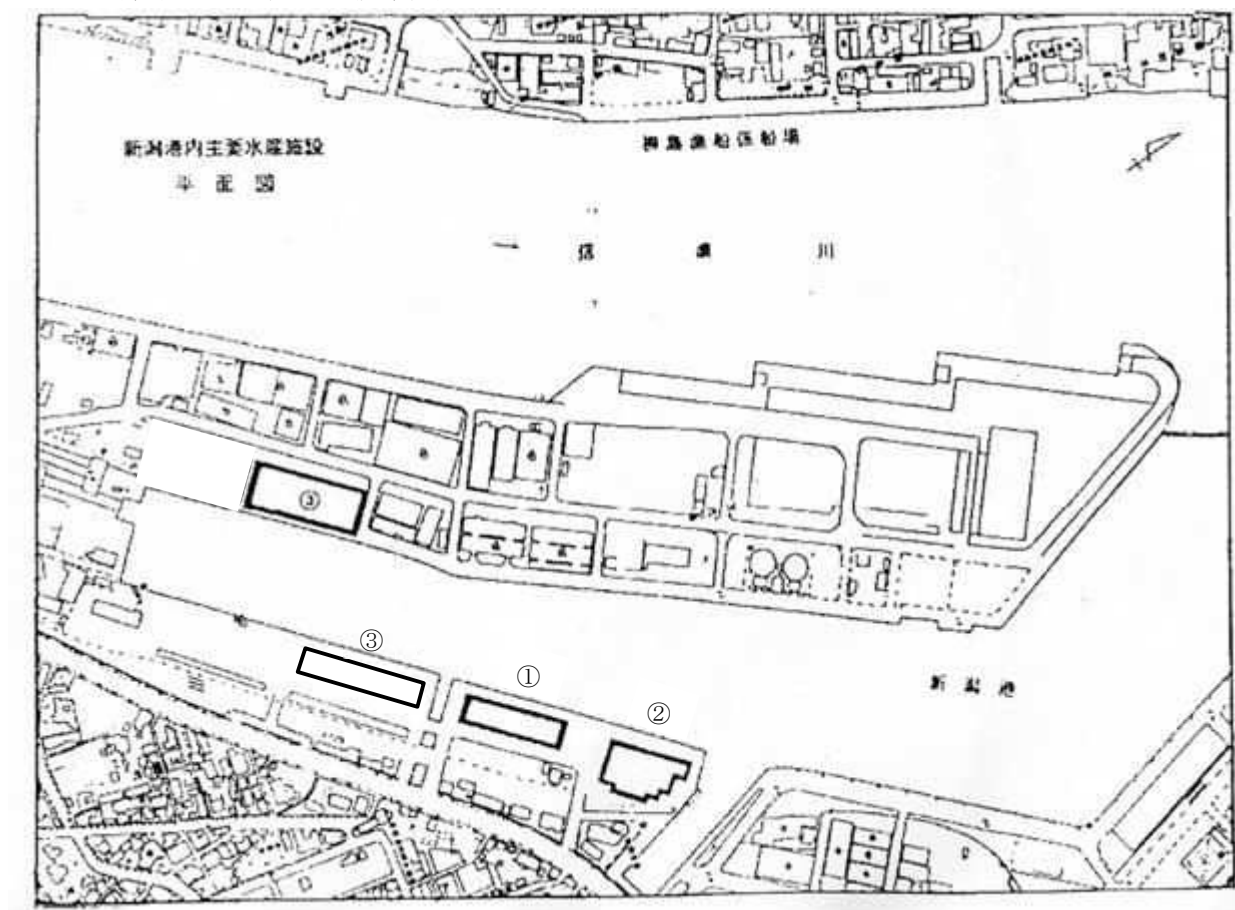


### (3) 新潟港内主要水産施設

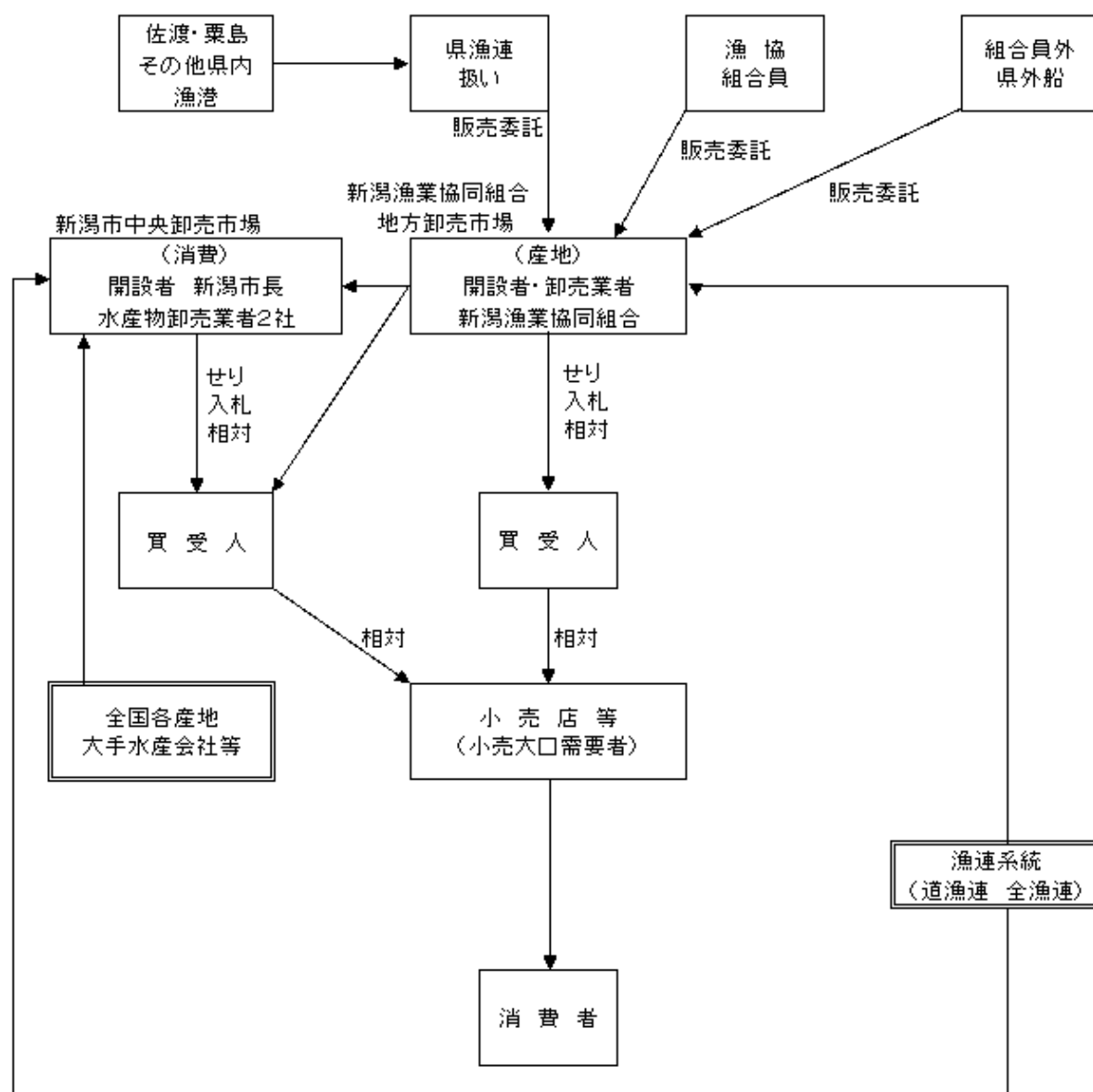
#### ア 新潟港内主要水産施設概要

位置	図面 番号	所有者	用途	規模	建設年月
東 港 線	①	新潟漁業協同組合	水産物荷捌施設	2,304 m <sup>2</sup>	S49.12
	②	新潟漁業協同組合	冷蔵庫及び貯氷庫	製氷能力 80t／日 貯氷能力 3,000t	S58.3 H6.3
	③	新潟漁業協同組合	水産物荷捌施設及び事務所	4,703 m <sup>2</sup>	H22.9

#### イ 新潟港内主要水産施設平面図



(4) 水産物流通図



## 7 食肉センター

### (1) 設置目的

食用に供するために行う獣畜の処理の適性を図り、公衆衛生の向上及び増進に寄与するため

### (2) 施設の概要

ア 施設の名称	新潟市食肉センター
イ 所在地	新潟市西区中野小屋 1631 番地
ウ 開設年月日	平成 5 年 4 月 1 日 (昭和 42 年 8 月 小新地区に旧食肉センター開設 平成 5 年 3 月末廃止)
エ 休場日	日曜日及び土曜日、休日及び 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで
オ 開場時間	午前 8 時 30 分～午後 5 時
カ 運営形態	公設民営 (指定管理者制度)
	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 指定管理者 公益財団法人新潟ミートプラント  指定期間 令和 6 年 4 月 1 日～令和 11 年 3 月 31 日 </div>
キ 敷地面積	42,576.87 m <sup>2</sup>
ク 建物面積	10,459.22 m <sup>2</sup>
ケ 施設内容	処理工場棟、管理棟、廃水処理施設、焼却炉・ワラ堆積棟ほか
コ と畜能力	大動物 30 頭／日、小動物 900 頭／日
サ 廃水処理方法、能力	活性汚泥方式 1,200 m <sup>3</sup> ／日

### (3) 生産地別処理頭数 (令和 6 年度)

生産地	牛	豚	めん羊
新潟市	83	19,288	—
長岡市	4	2,977	—
三条市	14	13,607	—
新発田市	279	31,385	—
村上市	71	61,552	10
燕市	3	4,281	—
五泉市	4	—	2
上越市	3	—	—
阿賀野市	4	—	—
魚沼市	—	1,946	—
南魚沼市	73	1,236	—
胎内市	241	5,600	—
弥彦村	—	4,910	—
田上町	—	770	—
阿賀町	16	—	—
津南町	—	152	—
関川村	—	8,548	—
聖籠町	—	—	—
加茂市	8	—	—
小千谷市	1	—	—
十日町市	—	—	—
佐渡市	—	—	—
北海道	2	—	—
岩手県	—	—	—
秋田県	—	1,817	—
山形県	2	21,313	—

生産地	牛	豚	めん羊
福島県	—	90	—
群馬県	2	—	—
富山県	—	24	—
広島県	—	—	—
総数	810	179,496	12

#### (4) 食肉センター施設設備改善工事及び食肉センター冷凍冷蔵設備改修工事

新潟市食肉センターは肉畜の生産から畜解体処理加工、販売までの一貫した流通体制を強化するため、新潟市が整備した施設である。

0-157 対策、BSE 対策などの法改正に伴う施設設備や備品等の改善工事を随時実施しており、消費者に対し新鮮で良質、安全で衛生的な食肉の提供に貢献している。

令和 5～6 年度は、施設の老朽化及び国の特定フロンの使用規制等の影響に伴う改修工事等を行った。

	R4 年度	R5 年度	R6 年度
事業費	54,741 千円	444,434 千円	922,533 千円
起債	52,000 千円	444,300 千円	922,500 千円
県補助	2,673 千円	0 円	0 円
一般財源	68 千円	134 千円	33 千円
主な工事内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高架軌条レール整備</li> <li>・照明設備改修</li> <li>・ポンプ棟給水設備改修</li> <li>・大貫又鍵保定装置設置</li> <li>・解体処理速度変更システム導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍冷蔵設備改修工事</li> <li>・污水处理施設自動スクリーン及び調整ポンプ改修工事</li> <li>・火災報知設備機器取替工事</li> <li>・金属検出器購入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍冷蔵設備改修工事</li> <li>・小動物解体室設備改修工事</li> <li>・圧縮空気設備改修工事</li> <li>・污水处理施設汚泥掻き寄せ機改修工事</li> </ul>